

2016年1月6日

社長年頭あいさつ（要旨）

トヨタ車体株式会社では、1月6日（水）11時10分よりトヨタ車体健保会館で辞令交付式を行いました。この中で、取締役社長 岩瀬隆広から社員にむけた年頭のあいさつの要旨は以下のとおりです。

「もっといいトヨタ車体」を目指して、勇気をもって改革にチャレンジしよう

私たちがめざす「もっといいクルマづくり」には、全社員が、自らの役割を認識し、やる気をもって働くことにより「もっといい会社になる」ことが最重要であると考えています。

このために、知識や見識を実行・行動に移す力である「胆識」を常に意識して、行動に移すことを前提に物事を考え、自らが発信し・自らが行動することを心掛けて欲しいと思います。そして、やるべきであると判断したら、いかなる困難があっても遂行し続ける強さ、実行する覚悟をもっていただきたいと思います。

◆今年の重点課題

1. 企画・開発力の強化

新たなマーケットイン開発へのさらなるチャレンジです。世界の市場に自ら足を運び、クルマの使われ方、現地の人の求める品質やニーズを自分の目で見て積極的に提案するとともに、また、先進技術開発、新工法開発など、領域を拡大し、もっといいクルマづくりに取り組んでいきましょう。

2. 国内でのモノづくり力の強化

新技術開発や生産技術革新などのモノづくり力は、日本に現場があるからこそ磨き上げられるものです。モノづくり改革を徹底的にやり抜く Reborn21 を通して競争力ある商品を世界に送り出せる体制を整えていきましょう。

3. 海外事業展開力の強化

グローバルトヨタの商用車展開の中で骨太な役割を果たすためには、多種少量生産で、明日、明後日の新興国での商用車 SKD、CKD のスキームを拡大していかなければなりません。また、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）の締結を踏まえた、車両と部品のグローバル生産・供給体制の骨太な戦略の共有をしていきましょう。

SKD : Semi Knock Down

CKD : Complete Knock Down

4. CO2 ハーフチャレンジ

トヨタ自動車が「環境チャレンジ 2050」を掲げ、新車 CO2、生産 CO2 でゼロエミッションにチャレンジしていますが、当社もトヨタ車体グループをあげて取り組み、トヨタグループの一員としての責任を果たす必要があります。そのために CO2 を半減する取り組み「CO2 ハーフチャレンジ」を目標に掲げ、「製品環境」「生産環境」「社会連携」でさらなるチャレンジを実行していきましょう。

最後に、今年の干支である申（さる）の文字は、果実が成熟して形ができ上がっていく様子を表し、「伸びる」の原字でもあるそうです。私たち1人ひとりの取り組みが「もっと、もっといいトヨタ車体」という実を結ぶように、勇気をもって改革にチャレンジしましょう。

以上



おかげさまで、会社創立70周年。みなさまに心から感謝。

